

第2章 取組段階における事例

本章では、構想、調査、計画、設計、施工、維持管理の取組段階ごとに実施事例を整理しています。

Ⅲ. 計画

事例の計画編では、保全対象種の決定や配慮対策の検討事例を整理しています。

注) 地区事例は、実際に取組を行う際に参考となる考え方を紹介したものです。
あくまでも1例であることから、画一的に適用しないように留意してください。

1 トキのエサ場づくりの取組事例～小佐渡東部地区（佐渡市）～

(1) 保全対象種の決定

① 保全対象種の決定にあたっての選定理由

☆トキの餌資源として想定されるもので、「乾田化の影響を受けやすいもの」、「水路と山林の不連続性の影響を受けやすいもの」とした。

② 保全対象種の決定

ドジョウ、ヤマアカガエル、クロサンショウウオ

貴重種
保全対象種

魚類
ギンブナ
タイリクバラタナゴ
タモロコ
ドジョウ
アユ
メダカ
トウヨシノボリ

小動物 (両生類・爬虫類)
クロサンショウウオ
イモリ
アマガエル
ヤマアカガエル
ウシガエル
ツチガエル
モリアオガエル
カナヘビ
アオダイショウ
ヤマカガシ

底生動物
マルタニシ
カワニナ
ヒメモノアラガイ
モノアラガイ
サカマキガイ
ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)
ドブシジミ
ミズ網(貧毛網)の一種
チスイビル
ミズムシ
ヨコエビ科の一種
アメリカザリガニ
サワガニ

水生昆虫類
オニヤンマ
シオカラトンボ
ミズムシ科の一種
コオイムシ
タイコウチ
マツモムシ
ユスリカの一種
アブ科の一種
クロングロウ
ミズスマシ科の一種
コガネムシ



<ヒント>

- ・「構想や計画の段階で住民から入手した情報」、「概定した環境保全目標」、「調査結果」から選定理由をまとめること
- ・保全対象種は、環境保全施設の設定にも多大な影響を及ぼすので、専門家にもよく相談のこと

(2) 環境配慮対策の検討

① 保全対象種の決定にあたっての選定理由

生態系保全工法（環境保全施設のモデル工事）の検討・実施にあたり、トキの餌資源となる保全対象種を水田内部で確保・保全することを第一の目的として、生態系調査・集落ワークショップ・集落アンケートの結果を踏まえて、全体ワーキングの中で検討し決定した。

また、保全対象生物のごとに、現在の生息環境を把握し、支障を与えている要因を改善するように保全工法を検討した。



地区内でネットワークを「保全」するエリアと「回復」するエリアに分けて設定する。（必要に応じて「回避」を選択する場合は地区から除外すること。）

「回復」するエリアについては環境配慮対策が「①生息・生育環境（ハビタット）の創造」、「②移動経路の修正・回復」どちらに基づくかによって、施設設計等に影響するので注意する。

〈保全対象種とその対策工法〉

種名	生息環境の支障状況	対策の考え方	対策工法
ドジョウ	○ 乾田化により、中干し時期の避難場所と冬期間の越冬場所がなくなる。	水田内部で、①産卵場所、②中干し時の避難場所、③冬期の越冬場所、を確保できるように湧水をキャッチし、「恒常的水域（通年湛水している水域）」を創る。	江、冬期湛水
	○ 排水路が深いため、水路から水田へ遡上できない。	水路と水田との間の連続性を確保する	水田魚道
	○ 水路に大きな落差があるため、上流部へ遡上できない。	水路内にある落差を解消する	水田魚道
ヤマアカガエル、クロサンショウウオ	○ 乾田化して水田では、早春の産卵場所がない。	水田内部で、①産卵場所、②中干し時の避難場所、③冬期の越冬場所、を確保できるように湧水をキャッチし、「恒常的水域」を創る。	江、冬期湛水
サワガニ、水生昆虫類	○ 乾田化した水田、コンクリート製水路では、生息環境がない。	水路の底に土砂を堆積させ、良好な生息環境を創る。	よどみ工、排水口管理による湛水